

平成30年度  
学校関係者評価報告書

令和元年 8月 9日

学校法人大原学園  
東京ホテル・トラベル学院専門学校  
学校関係者評価委員会

## 平成30年度 学校関係者評価報告書

### 1. はじめに

学校法人大原学園 東京ホテル・トラベル学院専門学校 学校関係者評価委員会は、平成30年度の自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

### 2. 学校関係者評価委員会開催日

令和元年7月18日(木)

### 3. 開催場所

東京ホテル・トラベル学院専門学校 2Fトラベル実習室

### 4. 学校関係者評価委員

#### ①学校関係者評価委員 8名

氏名	所属
駒嶺 岳	株式会社帝国ホテルエンタープライズ 専務取締役
浅山 恵一	一般財団法人日本ホテル教育センター 事業推進部 検定事業部長
齋藤 ゆき	株式会社八芳園 総務部採用教育課 主任
佐々木 貴夫	公益社団法人日本プライダル文化振興協会 事務局長
原 周太郎	株式会社JTB 新宿第一事業部 営業課長
渡辺 正樹	一般社団法人日本旅行業協会 事務局次長 ※齋藤浩之氏(広報室長)の代理出席
高木 克典	東京急行電鉄株式会社 都市創造本部 渋谷戦略事業部 開発計画部 統括部長
石井 しおり	公益財団法人日本ケアフィット共育機構 理事 事務局 ※高木友子氏(理事事務局長)の代理出席

#### ②学校関係者評価事務局 2名

氏名	所属
高山 直幸	東京ホテル・トラベル学院専門学校 校長
萱沼 卓也	東京ホテル・トラベル学院専門学校 課長

## 5. 学校関係者評価・意見

【自己評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・ 目的・ 育成人材像	1	理念・目的・ 育成人材像	80%	<p>教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。</p> <p>校訓を「感奮興起」と定め、この意味するところの「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一步となる。興味は才能を開花させ起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。</p> <p>教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育の目標に掲げ、学生一人ひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。</p> <p>この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした社会人講座を二本柱にしなが、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。</p> <p>これらの教育理念・目的・育成人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。</p> <p>理念や目的、また育成する人材像は入学案内パンフレット、大原学園ホームページを通じて公表している。</p>	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めて いる	<p>学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。</p> <p>それらに基づいて部課長会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。</p> <p>教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。</p>	適正に運営されている。
		3	事業計画	定めて いる	<p>学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。</p> <p>教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。</p>	適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	<p>理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。</p> <p>意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。</p>	適正に運営されている。
		5	人事・ 給与制度	80%	<p>要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。</p> <p>人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心にして適切に運用されている。</p>	適正に運営されている。
		6	意思決定 システム	90%	<p>理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。</p>	適正に運営されている。
		7	情報 システム	60%	<p>学校運営における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。</p> <p>役目を終えたシステムなどが残されており整理統合に取り組んでいる。</p>	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	8	目標の設定	設定している	毎年、教育課程を編成するにあたり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	適正に運営されている。
		9	教育方法・評価等	70%	教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しにあたっては、関連企業等と協力した検討会によっている。 学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。	適正に運営されている。
		10	成績評価・単位認定等	70%	成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。 毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。 卒業研究については、研究内容設定から成果評価まで企業に協力いただき、現在のビジネス現場に応じた実践的内容で実施することができている。 シラバス等による成績評価基準の公開準備を進めていく。	適正に運営されている。
		11	資格・免許の取得の指導体制	80%	資格取得の体制については一定の水準は維持できている。 保護者への教育方針の理解を高めること、また、実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。	<p>■全系統 資格取得だけでなく、現場の声を早くから耳にし、より実践的に活躍するための人材育成として教育課程編成委員の方に特別講義を担当いただき、業界の現状などを話していただいております。</p> <p>《提言に対する対応方法》 今後、委員の方に個別でお声がけし、業界の現状などを講話いただくように進める。</p>
		12	教員・教員組織	70%	常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。 一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	適正に運営されている。
4	学修成果	13	就職率	90%	就職希望学生への就職指導においては、教員及び就職部スタッフが個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。 それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	適正に運営されている。
		14	資格・免許の取得率	70%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。 大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	適正に運営されている。
		15	卒業生の社会的評価	該当しない	今後卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立てていく。	-

【自己評価】 0%（取り組めていない） ～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	16	就職等進路	70%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。 就職内定獲得に必要な指導内容は2年間カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。	適正に運営されている。
		17	中途退学への対応	60%	退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は外部研修会への積極参加により、担当者の更なる能力向上に向けた取組みが必要である。ご家庭との連携は継続して実施していく。	適正に運営されている。
		18	学生相談	60%	学生相談については、学生のシグナルを担当が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、学期毎の節目だけでなく、月1回全員と個別面談を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、管理者に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	適正に運営されている。
		19	学生生活	60%	より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。 今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	適正に運営されている。
		20	保護者との連携	70%	保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書が発送される前については確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しかったり、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	21	卒業生・ 社会人	60%	<p>卒業生への支援体制としては、卒業時の担当を窓口とし、問い合わせに応じていく。担当と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られるように準備していく。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えていく。</p>	<p>■全系統 [浅山委員] 先生方が対応されることも大切だと思うが、卒業生が仕事で悩みを抱えた場合、先生方は話しを聞くだけになってしまっているのではないかと。同窓会を定期的に開催することで、卒業生同士のつながりの場を設けることも必要。</p> <p>■ウェディング系 [佐々木委員] B I Aのプライダルコーディネーター技能検定は、3級は学生が受験できるレベル、2級以上は実務経験が必要になる。卒業生に向けた2級講座の開講を検討してみても良いのではないかと。</p> <p>■トラベル系 [原委員] オープンキャンパスに卒業生を招くことも卒業生とつながりを持っていく上では大切だと思う。ツアーコンダクターとして活躍している卒業生がオープンキャンパスにいたら、高校生は憧れの眼差しで見られるだろうし、一石二鳥の効果があると思う。</p> <p>《提言に対する対応方法》 卒業生専用のWebサイトが構築されている。同窓会などの情報発信はこのサイトを通して行うことができるので、活用していきたいと思う。講座の開講はリカレント教育にもつなげて行ける内容であるため、今後検討していきたいと思う。 卒業生のオープンキャンパス参加は既に一部のコースでは実施ができていますので、今後は他のコースにも広げていきたいと思う。</p>

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
6	教育環境	22	施設・設備等	70%	<p>施設・設備に関しては、まだまだ十分な対応ではないと思われる。今後は、様々な施設を見学し、教育課程の編成に則した施設計画を立てていく必要がある。</p>	<p>■ホテル系 [駒嶺委員] 現状の施設で言うと、レストラン、バンケット（宴会）の実習が不足だと思われる。サービスの練習はホテル業界で働く上では必要。また、インバウンドを考えると和食器を使用したトレーニングも必要。</p> <p>■ウェディング系 [齋藤委員・佐々木委員] 披露宴会場でのサービストレーニングは必要。また、神殿までは必要ないが、和装結婚式で使用する一式はあっても良い。三々九度などは、テキストで聞いたことがあっても実際に触れる機会はほぼない。備品だけでも必要ではないか。</p> <p>■トラベル系 [渡辺委員] 発券機は他の専門学校でも導入しているのであっても良いかと思う。座席予約システムなども同様に。</p> <p>■鉄道系 [高木克典委員] 他の専門学校と比較をしてしまうと、運転シミュレーターや自動改札機があっても広報面では必要かと思う。</p> <p>《提言に対する対応方法》 料飲部門でのトレーニングは確かに施設としてはなく、現状は普通教室などで行っていた。バンケットルームの設置に対して実現できるようにしていきたいと思う。その他の施設については、今後の教育内容と照らし合わせて随時検討していく。</p>
		23	学外実習、インターンシップ等	80%	<p>実習や研修等の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。</p> <p>研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。</p>	適正に運営されている。
		24	防災・安全管理	60%	<p>保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前に職員及び学生への事故防止等の指導を実施していく。</p>	適正に運営されている。
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集活動は、適正に行われているか	80%	<p>将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起ささないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。</p> <p>留学生については、日本語学校への情報提供、連携を強化し、適正な受入れ、在籍管理を行っていく。</p>	適正に運営されている。
		26	入学選考	80%	<p>学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。</p> <p>また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。</p>	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
		27	学納金	適正に行っている	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤	安定している	学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。	適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、大原学園ホームページにも掲載している。 外部者による学校関係者評価を行い、報告書は大原学園ホームページに掲載している。 今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	50%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	適正に運営されている。



【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
10	社会貢献・ 地域貢献	36	社会貢献・ 地域貢献	60%	従来より、附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのも提供したいと考えている。	
		37	ボランティア 活動	50%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や病院等のボランティアに参加している。	

**■鉄道系**  
 [石井委員]  
 サービス介助士を取得している方を対象に、味の素スタジアムのJリーグの試合でボランティアを募集している。それ以外にも、様々なスポーツの試合会場に派遣をしている。取得しただけで終わりにせず、実践をつんだ方が良い。

**■ホテル系**  
 [駒嶺委員]  
 近隣の企業と連携し夏になると打ち水をしてはどうか。近隣と連携をとり、打ち水をやってもよい。帝国ホテルでは、夏になると担当を決めて打ち水を実施している。

**■ウェディング系**  
 [齋藤委員]  
 授業で学習したネイルを福祉施設に行き高齢者の方へするボランティアを導入してはどうか。高齢者の方はそれを楽しみにしている方が多いと聞いたことがある。

**■トラベル系**  
 [原委員]  
 ボランティアツアーがある。被災地復興のボランティア等多くのツアーが企画されているのでそれに参加するのも良いかと思う。そうすると、ボランティアだけでなく、旅行会社の社員の仕事も見学できるのでさらに良いのではないかと思う。

≪提言に対する対応方法≫  
 サービス介助士取得者向けのボランティアや、ボランティアツアーは学生へのインフォメーションを検討したい。その他は、企業、地域との連携が必要になるので前向きに研究、検討していくこととする。

## 6. 学校関係者評価委員会総括

東京ホテル・トラベル学院専門学校の学習環境、学校運営等の取り組みについて自己点検評価を基に検証を行った結果、適正に運営されていると評価できると言える。就職も全員が決定し、幸せな就職に向かって教職員全員が一丸となり学校運営、教育活動に取り組んでいることが分かる。ただ今後は、上述提言の通り、現状に満足することなく、常に社会で求められている人材育成を意識して取り組み、①実務家による講話（特別講義）の調整、②実習施設の整備、③卒業生へのサポート、④ボランティアの順に環境整備を整えていく。この4点以外でも、先々を考え常により良い教育環境、学校運営ができるようにPDCAを繰り返しブラッシュアップを図ってほしい。また、新しい学校だからこそ、新しい取り組みをしてホテル、ウェディング、鉄道、トラベルの分野で革新的な学校になってほしいと考える。そのために、学校関係者評価委員一同で、客観的な視点から様々な提言をして、検証することで、東京ホテル・トラベル学院専門学校が社会からの信頼を益々得られるようにサポートして行きたいと考えている。